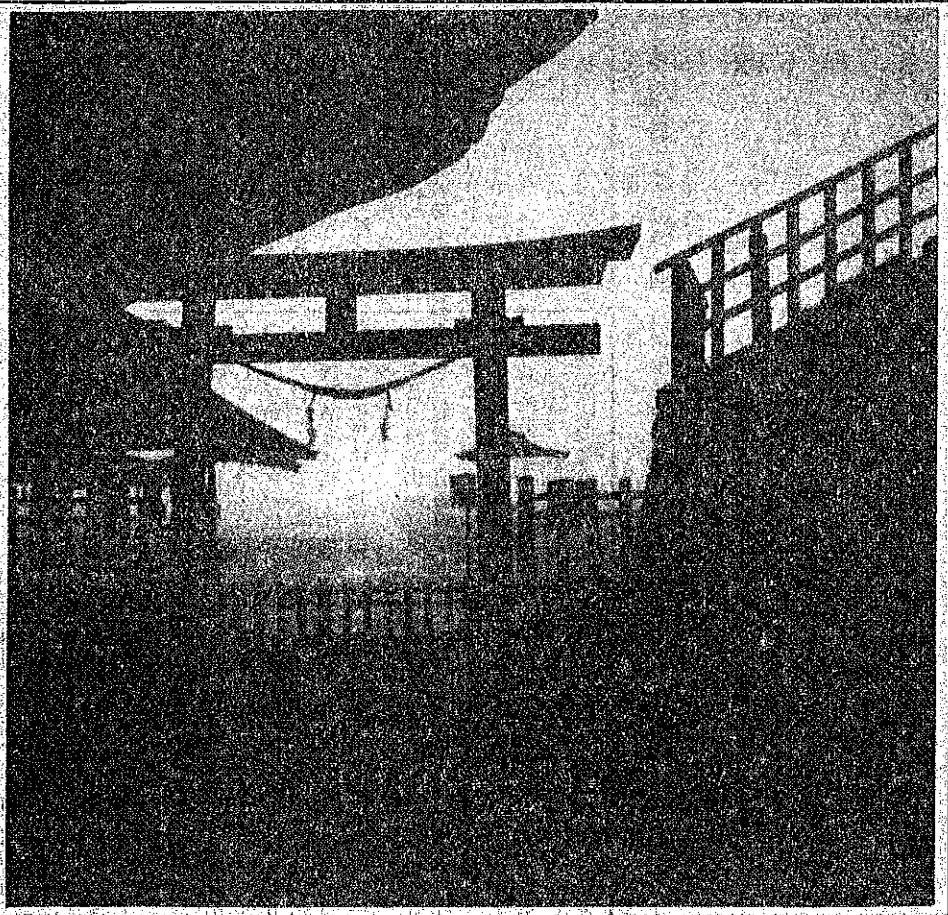


鵜戸

発行者兼編集者
鵜戸神宮
社務所
印刷所
西日本印刷

新しい年を迎えて

鵜戸神宮宮司　長友安美

昭和四十五年の新春を迎え、謹んでお祝詞を申し上げます。

古来「西洋は物質」「東洋は精神」によって文明が発展して来たが、その精神文明の代表的な我国にあって、人を人とも思わない罪悪の続発、自分の主義主張を通す為、いかなるものも破壊し他人の迷惑を考えない行為がたくさん報道されている様に、道徳観念が忘れられている。思想教育の偏見によって戦争につながる軍国主義であるかのように「道徳」という言葉は現今忌言葉になってしまった。一昨年ようやく小学校に於て道徳教育の必要性を感じ、少しづつ普及して来た様であるが、学校教育のみにまかせきりでなく、一般家庭にこそ習慣づけなくてはならないものがあるのではないでしょうか。

昨年一年間を通し毎朝八時十五分からNHKテレビドラマ「信子とおばあちゃん」の放送があるが、ドラマそのものの筋書は、普通の家庭劇だが、そこにでてくる言葉のやりとりの中に「親孝行」とか、「他人に迷惑をかけない」とか云った道徳的な表現が、ふんだんに現われていることを思い、数多い番組の中で、毎朝このドラマを楽しく見、快よく感じたのは私一人ではないだろうと思う。道徳は、質のよい化粧品や美くしい衣服の様にうわべだけの飾りではなし、また他人に見せたり言ったりするものでもなく、自分自身の心にあるものが自然に日常生活に出てこなければならないものと思います。人間は常に盲識的にも無意識的にも罪を犯し、穢い心を起すことはしかたないにしても、その日その日の生活を浄く明く直く正しく歩くことに努めなくてはなりません。

親切、感謝、愛、慈悲、これらは道徳的なものです。この道徳をおしつめて考え、又実行していくとどうしても宗教をぬきにしては考えられないのです。たとえば親に孝行するということは、それが生きている間だけではなしに、その亡くなった後々までも弔い、まつり、大切にしなくてはなりません。子孫が祖先を大切にすることは、道徳上当然ですし、天地の恩に感謝し、その神々をまつるのも道徳上当然と思います。キリスト教の愛、仏教の慈悲、何れも道徳的なものです。道徳と宗教は真に相通うものであります。

新年を迎えるに当り、国家の安泰を祈ると共に、氏子崇敬者の皆様方の益々栄えあらんことをお祈り致します。

言一言

昨年四月二日、鵜戸神宮の氏子である日南市と、沖縄の首都那覇市との間に姉妹都市盟約を結び、いつまでも仲睦く、経済的にも手を携えて栄えていくことになったが、昭和四十五年の新年を迎え、今年も安保条約、沖縄、大学といった大問題をかかえて、さぞ今年も破壊、乱闘、負傷等の耳ざわりな言葉が、新聞、テレビ等で見たり聞いたりすることだろうと思うと、新年の晴々した気持もどこえやら…。

確かに安保や沖縄の問題も大切であり、その他日本にとって解決を要する諸問題が山ほどあるが、そのつど争い傷つき、倒れていく。保守派、革新派、皆んなそれぞれの主義主張はあるが、そのつど同じ日本人同志が敵としてにくしみあい、争うことはもうやめよう。個々の考えを主張する方法は別にあると思う。争う力があれば、なぜその力を他の方法に向けられないものだろうか。平和でありたい気持は皆んな同じだ。安保や沖縄の問題の是々非々はさておいて、我々はもっと日本人としての自覚にめざめ、同じ祖先の子孫として、やさしい兄弟として互いが心をひろく相手の意見を尊びあって一つ一つの問題をかたずけていきたいものである。

今年も雨の日、嵐しの日、また快晴にめぐまれた清々しい日もあることだろう。朝日の豊栄に登るごとく、希望に満ちたよりよい、我々の住居、日本を築き真の豊葦原瑞穂国ならんために努力したいものである。

「母」と「敬神」

合田　も　と

私たちは敬神婦人会の会員として、神に奉仕し、神を拝するのでありますが、ただ神を拝するだけでなく、神との交流の場が自分自身にあって、ちょうどテレビのセットの様なもので、放送局が、どこにあろうとテレビがうつりさえすればよいので、神がどこにおられようとも自分に神が現わされるということが、神の信仰の本質と云うものではないでしょうか。生きていることは、もはや私たち自身ではなく、神が私たちのうちにあって、私たち一人一人に神が現われ、一人一人が神前であると云う自覚のもとにありたいものです。しかるに、私たちはある時は妻になり、母になり、女として、神のつくられた自然の法則を知り、女の生きる法則を知ることによって家庭が栄え、調和ある家庭になり、生まれ育つ子供達にも良き指導者となるのです。

現在日本の文化が物質的のみにはせ、美しい精神的なものが失はれつつあります。精神のかては、愛喜、平和、慈愛、善意又真の民主、々義の人間尊重、生命の尊厳、正しき人、生欲、奉仕の実践で世の母が、特に敬神婦人会というものが、信仰により英智と洞察と勇気をもって、この激動する時代にあって、心確かに神の忠実な民として、また真実の女性、真実の母でなくてはなりません。

母という言葉は偉大なイメージをもっています。それははかり知られない力を持ち、エネルギーを内在させているのであります。或る婦人は、東大構内が、ゲバルト学生によって学校が封鎖された時、「母です母です」と連呼しながら如何なる人も、学長すら絶対に入れぬ安田講堂に入って行きましたが、それは母なる言葉の力でありました。その時「山田です」「誰々です」と言っても、とても及ばなかったでしょう。やはり母でなくてはならず、それほど母は我々の命に密着しているのです。我々が生まれ出た時から、母は常に子供と共にあって、いくら形は離れていても心に於いては、母は大地のごとく我々を支えていてくれるのであります。母が母である事が心の大地を不動のものとし、家庭を社会を平和にするものでありましょう。ある大学生は、

私にとって母は世界にまたとなき宝であり、私の今日あるのは、全く母のおかげです。失望した時、誘惑に陥らんとした時、故里の母を思えば、励みを得、迷わんとする心が離れます。実際大学に入って自分の魂と同時に大切であることを切に感じる様になりました。我々に母あることは何よりの命であり力でありどんな立派な書物の教も母には及びません。

しかし私が斯くも母を慕うのは、母が誠に敬神者として永い年月を過され、私を其心で育ててくれた事に依ると信じ感謝に堪えません。故に私にとって神は神と離れることになります。それ故全く母によって神を認めたのです。学問や理屈でなく、母が実際に証明してくれました。私の幼い時から今母よりの手紙によって得る慰めと力とはたとえようがありません。いつも感謝に充つるのであり、まして帰省の時の喜びはどうして言葉に現わされましょう。母は私にとって実に生命であり、生命の泉であります。

この様に母を持つ大学生の喜、力、慰め、幸福は如何ばかりでしょう。今や日本の経済力は世界で三位になりましたが、社会をつくるかぎは経済力でも科学力でもありません。日本の未来を、家庭の未来、社会の未来を開くかぎは先づ自分の愛児を世の光にと祈りつづける母こそ、神の喜び給う唯一の奉仕であり、伝導であり、真実、愛情をもって敬神を貫き通す母の教育こそ、子供を生かす至高至上の宝ではないでしょうか。

（鵜戸神宮敬神婦人会々員）

境内あちこち (1)

八丁坂

この坂は、鵜戸神宮の表玄関として、坂口から社殿まで約八丁あるところから、その名を八丁坂と呼ばれ、鵜戸八景の一つである。三百年余の飫肥杉がうっ蒼と茂り昼なお薄暗く、以前は吹毛井部落から、上り四百三十八段、下り二百七十七段を登り降りして御神前に詣でたのである。この石段の下り道に沿って昔は左右に僧坊が建ち並んでいた。当時のおもかげをしのぶ坊跡があちこちにあるが現在は昭和四十一年一月に新参道が出来たことによって森閑としている。この坂は延暦年中に吹毛井坊の齋の尼人が頭に礫石を担って運び築いたと伝えられ、八丁坂のない以前は、礫辺を攀ぢて神前に至ったと云うことである。この長い石段を登り降りし苦労して参拝することに意義があり、時代と共に新参道が出来たとはいえ、真に鵜戸さんのお蔭を蒙らうとする人等はこの本参道を通っている。

敬神思想の高揚を

敬神婦人会初の三社詣

当神宮敬神婦人会は、敬神思想の高揚を主旨として、昭和三十年六月三十二日高松宮宣仁親王殿下御参拝を記念して、日南市の地域婦人の人たち十七名によって発足したもので、現在八十三名の会員によって、例大祭の参列、全国敬神婦人会指導者講習会等の参加、境内地会員による清掃奉仕、皇族の御参拝には生花をして奉迎申し上げる等熱心に行なわれている。

そして婦人会の事業として、当神宮御祭神が安産御守護の御神徳があるところから、一般参拝者にと、初詣、岩田帯の調製、婦人会の手によって行なわれている。富沢ミヨ会長は

「現在の社会は物質文明に押しつぶされ、都会の圧力に負ける若人達に心のふるさと、神話の国、住みよい日本の国柄を再認識してもらうとともに、今後益々敬神思想の高揚を計り、社会の浄化に協力し、鵜戸神宮の御繁栄と日本の発展とを、そして会員の増加を念願しています」

と語っておられた。

尚去る十一月九日、婦人会により初めて三社詣が行なわれ、会員約五十名が、宮崎神宮、平和台、西郷原御陵、妻神社等に参拝、佐藤祢宜の案内で楽しい有意義な一日を過した。

感無量の御奉仕

婦人教養講習会に参加

敬神婦人会では、去る昨年八月二十六日から三日間に渡って、伊勢神宮の神宮会館にて、第九回婦人教養講習会が開かれ会長外四名の会員が参加した。

講習会は、大石義雄京大名誉教授等の講演、大祓詞の奉唱、内宮御遷宮御敷地の清掃があり、熱心に聴講、御奉仕と、有意義な三日間であった。参加した会員の一人、境セツ氏は、

「敬神婦人会に入っていますおかげで、心の故郷と云われている伊勢神宮でためになるお話しや、御奉仕が出来たことを本当に喜んでいます。私どもは日頃家庭におわれているとはいえあまりの無関心さに、はずかしく思いました。これからは、こういった講習会に会員が交互に参加し、大いに敬神婦人会を通じ及ばずながら正しい、日本のあり方を広めていきたいと思います。」

鵜戸の天然林

宮大農学部教授
農学博士　平田正一

☆…今回は特に宮大農学部教授平田正一先生による、鵜…☆
☆…戸周辺のめずらしい熱帯の植物について、宮崎日日…☆
☆…新聞社の御協力をえて、皆さんに紹介しようと思う…☆

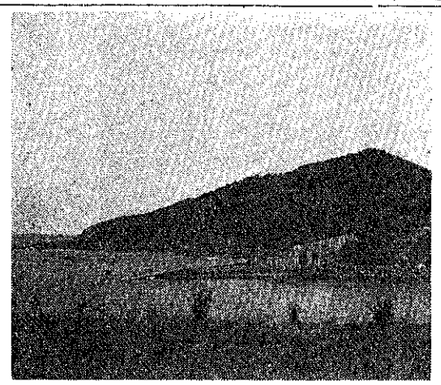
昭和十七年発行の日野厳著「鵜戸の宮井」は鵜戸の植物についてのただ一つの文献である。この中に戦前の鵜戸の森を「社背の大森林は千古斧を入れぬ一大美林であり、暖地性樹木は鬱蒼として繁り昼尚暗く」と記されている。この森も昭和二十年の枕崎台風で根こそぎ失なわれ、無残な鹿角の林と化したが近ごろどうやら森らしくなってきた。高く育った木は、それまでの長い間、強く吹き折るほどの台風もなかったのであろう。

鵜戸の森は人手の加わらない天然の林で、宮崎の沿岸でこれだけの広さの天然森は唯一のものであろう。ノアサガオは青島では花が開かないが、鵜戸では開く。この暖かさの森は鵜戸でなければ見られない野草をかかえこんでいる。宮崎県では是非、天然記念物として残しておきたい森の一つである。

鵜戸の珍らしい野草を拾ってみよう。

◎ブクリュウサイは粘土質の所を好んで育つキク科の植物でなんの役にも立たないが珍らしい。参道にある茶店の裏側など九—十一月ごろ開く三十センチ余の草である。インド、アフリカの熱帯にあるもので四国まできているが、宮崎では鵜戸から北では見たことがない。

◎モロコシソウは琉球、台湾から北にある植物でサクラソウの仲間である。宮崎では鵜戸から北ではないが、ここから南には多い。七センチ余りも伸びる草で、実がなると長い梗（こう）の先に経六ミリぐらいの白色の丸い果実をぶらさげる。



◎ソラタマカズラは名前の通りに白い果実をブドウのふさのようにつけ、蔓性で木にのぼる。日南海岸も鵜戸まで下がると見られるので、ソラタマカズラを見ると南に来たという感じがする。杉やシイの立木によく登っているが、葉が厚く黒ずんでいるから、白い実の色は一きわ目だつ野草である。これは印度支那、中国、台湾の熱帯性の植物であって日本では和歌山県まである。

◎キミノセンリョウは黄色の実をつけるセンリョウで、正月の生花材料となるセンリョウの変わりものである。佐多岬などでは谷間に多いが鵜戸ではめったに見られない。日陰のものほど葉が長くのび、沢もあって色が一段と濃緑となる。宮崎では生け花に利用したあとに挿（さし）木にして土をかけておくと冬でも育ってくれる。これも印度、マレーの南部系の熱帯植物では日本の西南暖地に多い。

◎キイレツチトリモチの名は鹿児島の南の喜入で初めて発見されたツチトリモチからつけられた。土にはえる鳥もちのとれる草である。モチノキほどのいいもちは採れないが、やはり茎をたたいて水で洗うともちがとれる。普通のツチトリモチは十月ごろにハイノキやクロキの根に寄生してニョキニョキと土から出て、真っ赤な梅ぼしのような坊主頭をつける。このキイレツチトリモチは坊主も小さいが淡黄色をしている。海岸にある厚葉のいやに臭いトベラの木の根につく。鵜戸では裏山の海岸近くの山中に多い。長崎県、鹿児島県では天然記念物に指定されているがそれほど珍らしいものでもない。琉球、台湾にあるから南の植物である。

◎アオイゴケは徳川の紋所葵の形をしたの葉をつけるアサガオの仲間の草である。鵜戸の長い石段を上りきった広場にある。ダイコンドラという芝ふの代用に使われる輸入の野草と兄弟で熱帯地方に普通にある。

◎キンギンナスビは鵜戸の山の南の海岸を通るといくらでもある。一昔前は青島にもあったように思うがこのごろとんと見かけない。熱帯の草だが、暖かい南九州に上陸してしまった帰化植物ということである。名前が示すようにキンは黄、ギンは白の果実をつけるナスビである。このナスは普通のナスと大きさは変らないが茎と葉に鋭い針のようなトゲがある。この実の色と（とげ）を組み合わせて、ニシキハリナスビともいわれる。このナスは毒草である。

◎キンギンナスビのある南回路には珍しいヘツカニガキが多い。山のくずれにいちはやくはえるアカメガシワに似ている。

鹿児島県佐多の辺塚の地名をとった名前である。四国から支那中南部までである亜熱帯植物で、宮崎では数少ない木である。

◎も一つ、辺塚の名をつけたヘツカシダがある。九州から印度支那までである熱帯のシダであって、ワラビと違ってその葉があらい羽根のように裂けた草である。鵜戸の大杉は日南海岸では最大のものであるが、この木の下にいっぱいあるから行けば一目でわかる。

◎シダの中でもひときわ変っているのがヘゴである。いわゆる木性シダといわれて太い茎が一メートルから二メートルも伸びる。青島亜熱帯植物の園の中に寄せ植えしてあるからよく知られている。

鵜戸の森の裏側では大小二十本余りが杉林の中に壮大に自然のままで群生している。ヘゴが天然記念物に指定になったのは昭和二十八年であるが、当時はまだまばらな林であって、さらに十五年の歳月を送った今は、保護が行き届いて親株の回りに二世、三世がうやうやと育って見事なヘゴ林となってきた。指定の直前だったが、不心得な者が大株を三本も盗み出して県外に売り飛ばそうとした一幕もあった。

日南海岸のヘゴは双石山を北限に、南郷町鰐浦、吹毛井、折生迫と次第に発見されてきたが鵜戸の群は最も大きい。宮崎でヘゴといえば広くシダのことをいいコモチシダはオニヘゴ、シケシダはムカゼヘゴ、木シダはカニヘゴとよんでいる。ヘゴがたくさんあるというので山深く入ったのはいいが、案内されたものがコンダであったのにはがっかりもし、びっくりもした。

◎鵜戸を北限とする珍木にギョボクがある。ギョボクは魚木でこの木の材を二十センチぐらい切って紡錘形の形に削りあげ、ひれや目玉をあしらって、しっぽのところに数本の針をはめこむ。これがイカ釣りのおとりの餌（え）木である。海中では淡い色も出るとかの話であって、ギョボクの餌木は一本二千円もするらしい。この木はフウチョウソウ科の植物であって、ギョボクは地球上では、この科のただ一つの最北限のもので、科としても二重の栄誉をになっている。

鵜戸の大杉の下には十一メートルもある大木が七本も群生している。印度、マレー以北にある熱帯産の木でここから南の海岸には多い。都井では猿（さるゝ）よせ場に大木がある。南方では果実を食用にしたり、材はマッチの軸木に使い、樹皮を下剤に使う。

駐車場から旧参道を上りきって左にゆくとマテバシイの葉先の円形のものがあり、自然に生まれた変わりもので珍らしい木である。

鵜戸は青島と違って一層暖かい。今まであげた熱帯産の植物は青島では全然ない。その他の植物も大きさや群がりの様子が目立って暖性を帯びている。こうした野草の集りは一括して天然記念物として残したいものである。

※　※　※

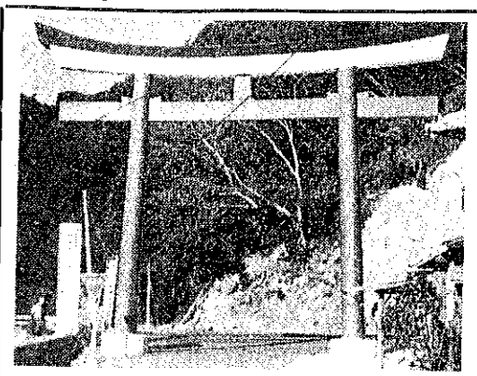
大鳥居、門守社完成

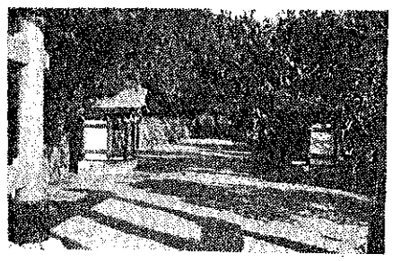
造営奉賛会第二期事業

昨年御造営奉賛会による第二期工事で新築中であった参道入口の大鳥居と、末社門守社が完成し、奉祝祭に先だち三十一日の大祓式のあと清祓式並びに御遷座祭が斎行された。

参道入口の大鳥居は最初の計画では国道二二〇号線沿の入口に一基と、自動車参道になっている県道に二基の二個所に建設予定であったのが、工事途中で県道使用の許可がおりず中止のやむなきに至った。

しかし国道沿の大鳥居は、昭和三十九年以前から朱塗の木造鳥居として存在していたが台風により倒壊し、早くから地元氏子の人達が復元を当神宮へ希望していたもので、この程、造営奉賛会によってその復興を見、昨年九月十七日完成したものである。





こんどの鳥居も朱塗であるが、高さ九メートルのコンクリート造りである。今まで「鵜戸神宮入口」の標柱に気ずかず素通りしていた参拝者も多い様であったが、県一の大鳥居がどこからでも目につき、当神宮の玄関口の象徴にふさわしい姿容である。

また参道第二鳥居の左右に御鎮座する末社門守社も寛延三年（一七九一年）に改造、明治十年に修繕したとの記録があるが、それ以来一七八年の風雨にたえてきたが、あまりにも破損甚しく、おそれおおいとのことで、この度の新築改造となった。

尚、大鳥居、門守社の奉祝祭は、近々に行なわれる予定である。

新社務所御用材伐採始まる

カンカンと鵜戸山にこだまする斧の音、木を引くノコギリの音、いよいよ新社務所が二月着工の予定で御用材の立木伐採が始まった。

先づ立木の前で怪我、過ちの無いよう清祓の神事があったのち次々に大杉が切り倒されていく。

お山の中でも人目につかない部分だが大変質の良い五十年杉だそうで、新社務所の御用材として、真に適材と思われる。伐採や運搬は、ほとんど氏子の人達によって奉仕されており。

やがて奥山から運び出される姿は、まさに壮観であろう。製材は日南森林組合が奉仕し、二月工事にとりかかり、今年の秋には完成の予定である。

社務所の屋根にあみ

この程、当神宮の象徴であり、二百五十年の歴史を誇る社務所のカヤぶき屋根の棟のふき替と共に屋根に網をかぶせる作業が、氏子の人達の手によって行なわれた。

社務所の屋根は、台風シーズンになると、カヤがとび、毎年たくさんの修理費に悩まされ、また三百三十平方メートルの屋根をふくカヤが、近くになくなったことから一氏子の発案により試みられたもので、百五十メートルの大きなブリ漁用の網でどんな大きな台風にも安心出来ると云うものである。この思わぬ網かぶせの風景に、参詣の人達もしばし、めずらしそうにながめていた。

社務日誌抄

八月十七日　祭器庫新築工事始まる
八月十八日　熊本県第八師団長、谷村弘氏参拝
八月二十二日　台風九号宮崎県通過、斎館の御門倒壊外被害甚大
九月十七日　御造営第二期工事参道鳥居末社門守社完成
九月十五日　敬老祭斎行
九月二十一日　日本交通公社主催福岡県旧婚グループ十組参拝
九月二十三日　秋分祭斎行
九月二十五日　衆議院議員、笹川良一氏参拝
九月二十九日　吹毛井部落に新職舎完成
十月七日　照国神社敬神婦人会一行六十名参拝
同日　西海道和楽略会一行六十余名参拝、これは福岡県に事務所を置く団体で、毎年全国の著名な神社、仏閣を歴訪しているもので、ハッピに手甲、脚絆草鞋ばき菅笠という出立にて昔をしのぶ姿に他の参拝者もめずらしげに見ていた。
十月十日　全国日本婦人連盟会長、山岸信子氏参拝
十月十一日　監査法人鵜戸事務所代表者参拝これは「鵜戸」の名を戴いて事務所設立したもの
十月十六日　崇敬者総代委嘱奉告祭斎行
十月十七日　神宮祭斎行（神嘗祭）
十月十八日　沖縄那覇市の稲嶺成珍第一助役　辺野喜英興市議会議長政財界等二十名参拝
十月十九日　末社皇子神社例祭奉仕
十月二十一日　鵜戸神宮敬神婦人会総会開かれる
十月二十七日　末社福智神社例祭斎行
十一月一日　北海道士別市々長木村伊三郎氏夫妻参拝
十一月三日、文化祭斎行
十一月五日　祭器庫新築完成
十一月九日　鵜戸神宮敬神婦人会一行五十二名、県内三社詣する
十一月十五日　七五三詣祭斎行
十一月十六日　窟前玉垣改築工事始まる
十一月二十二日　北海道神社庁参宮団上川支部一二〇名参拝
十一月二十二日　川崎重工業株式会社社長、砂原仁氏のお便り、錦梢の好季益々御健勝の段お慶び申しあげます
さて私事今秋古稀を迎えまして叙勲の栄に浴しました節は早速ご懇篤なお祝詞を賜わりまして誠とに有難く厚く御礼申しあげます、幸いなことに老母も恙無く起居いたしておりましてこの喜びを分ち得ました仕合わせをこのうえなく感激いたしております。
古稀の秋
叙勲のご沙汰賜わりぬ
まず老い母に
つげまつらばや
右御厚礼まで申し上げます
敬白
宮司　長友安美殿
十一月二十三日　五穀豊穣感謝祭斎行
十一月二十五日　伏見稲大社守屋宮司夫婦参拝
十一月二十五日　陸上自衛隊北熊本駐とん第八対戦車隊六十六名参拝
十一月三日　末社火産神社例祭斎行
十一月八日　神社本庁庶務部長吉田善氏参拝
十二月十七日　社務所中門復旧す（昨年台風により倒壊）
十二月二十一日職員による社務所煤払を行なう
十二月二十七日社殿煤払祭斎行
十二月三十一日　大祓式に次ぎ大鳥居　門守社清祓祭、除夜祭の斎行

井戸川・中村両責任役員

御改修功労者として表彰される

全国神社総代会が、去る十月六日福岡市で開かれ、当神宮御造営に際し、特に尽力された御功績により表彰されたものである。

井戸川一氏（七十二才）

氏は市民の人望厚く市長に推されること四期、日南市長として各種団体の長として活躍されており重要な役職におられ毎日席の暖まる時がないが、当神宮に対する崇敬心は殊に厚く御造営事業には、奉賛会長としてその重責を美事に果たされ、又御神徳の高揚として鵜戸神宮御神幸奉賛会を組織し、奉賛会長として力をいたされたことに日南市への御神幸が実り、昨年七月第一回海上渡御の御神幸祭を見るに至った。

氏は昭和四十一年十一月八日当神宮の責任役員に就任され敬神崇祖を卒先垂範その熱心さは誠に敬服の至りである。

中村　馨氏（七十九才）

氏は元陸軍少将であり現在郷友会会長として、長く社会に貢献されており昭和四十一年の建国記念日制定の大功労者でもありすこぶる神社に対する崇敬の念厚く、宮崎県護国神社、宮崎八幡宮の責任役員を兼ね、昭和四十六年十一月八日に当神宮責任役員として就任され、御造営事業には奉賛会副会長として力をいたされた。

お祭りに激卒先垂範必ず参列され、御高齢とはいえかくしゃくとして壮者をしのぶ元気にて東奔西走して敬神思想の高揚に努められている。

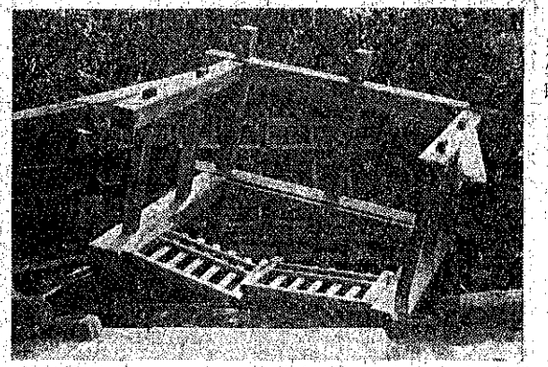
その熱心さにはただただ敬服の至りである。

台風九号の被害甚大

台風銀座とあって昨年も宮崎に台風が来た。

去る昨年八月、宮崎県下を襲った台風九号は、近年にない大型台風で、当神宮境内も大きな被害をうけた。

八月二十二日の夜明と共に、風雨が強くなり、神宮職員も全員非常勤務態勢をとり分全の備えをしたが正午頃には瞬間風速五十米前後の激しい風雨となり、参道の大小杉、境内の主な工作物や斎館の御門が倒壊、三百五十年の永い間風雨に耐えてきた斎館も壁が破壊し、風が吹きこみ、一時は倒壊かと危ぶまれたが、大きく傾くに止まった。



其の他のトタン屋根や瓦屋根のほとんどが剥れるいう惨たんたる有様で復旧作業が進むにつれあれもこれもと、被害の甚大なことが判明した。

今更の如くまことに自然の威力の恐ろしさを知るのである。

崇敬者総代決る

新たに十九名

この程当神宮と最も縁りの深い県南の崇敬者の中から、新たに崇敬者総代が決まった。

これは一昨年の御社殿御改修を契機に御神徳の発揚と神宮護持を趣旨として県南の各地区の漁協、農協長関係の中から十九名が選ばれ、去る十月十六日御神前で奉告祭を執行、宮司より各氏へ委嘱状が手渡された。

このあと社務所に於て初の会合が開かれ、総代会長に北郷町町長、高橋良則氏、副会長には南郷町助役堀切正計氏が推薦され、従来の氏子総代の方々と共に、神宮発展の為力添えを願うことになった。

尚崇敬者総代の中より責任役員として、油津漁協組合長川上善次氏、元日南市農協組合長佐伯竜男氏が推薦された。

その他委嘱された崇敬者総代は次の各氏である。

大堂津漁協組合長　松下忠一郎
鵜戸漁業協同組合長　富士正
南郷漁協組合長　高矢三郎
外浦漁協組合長　平原虎重
栄松漁協組合長　原賢治
内海漁業協同組合長　高橋春義
青島漁協組合長　胡元新蔵
折生迫漁協組合長　東尾重袈裟
宮崎漁協組合長　友常恭
鵜戸農業協同組合長　阿南吉則
東郷地区　黒木被七
吾田地区　畑田光章
酒谷地区　古沢源市
飫肥地区　上倉与七
細田地区　川越年秋

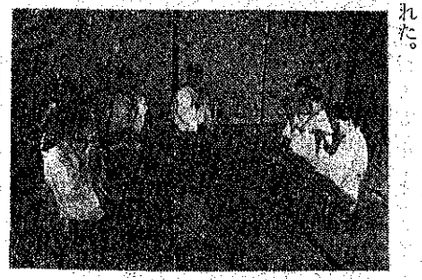
神楽笛を職員の手で保存

古くより鵜戸神宮に伝わっている神楽笛を、この程神宮職員全部が習って保存していくことになった。

これは、御神前に於いて祭典や御祈願に奏されていたが笛を奏する人が殆どいなくなった。

このままでは絶えてしまうので、唯一の奏者である当神宮伶人、後藤秀男氏の指導により、社務所に於て一週間に亘り講習した。今まで一度も笛を手にしたことのない職員もいて一時はどのようなことかと心配であったが、全員一生懸命努力した甲斐あって、御神前で祭典や御祈願に全員奉奏出来るまでに上達し、講師の後藤氏も、これで後継者も、出来、永く神楽笛を保存していけると安心しておられた。

映画「鵜戸」完成する



当神宮ではかねてから製作中であった、記録八ミリ映画「鵜戸」が、四ヶ月の期間を経てこの度完成した。

この映画は昨年七月、初めて行なわれた壮麗な流の祭典海上渡御を頂点として、鵜戸山の神話や歴史の跡を辿りながら、鵜戸を広く紹介し、かつまた各地から多数の参拝者が訪れるが、鵜戸神宮の姿、行事を見て忘れられていた日本人の根源に触れることによって人々の心の中に神ながらの道を高揚する趣旨で作られたものである。

製作は映画「飫肥杉の一生」で昭和三十八年度宮崎県文化賞芸術部門を受賞された、写真業の守山光正氏を中心に日南市教育委員長飯田達夫氏、元市観光課長川山博造氏等の協力によってである。茲に紙上をもって厚く感謝の意を表します。

鵜戸神宮にお詣りして

神社本庁教学部参事　川井清敏

私は、終戦後十年ばかり、福岡の太宰府天満宮に御奉仕していたので、鵜戸神宮にはたびたび参拝する機会に恵まれたが、東京に住むようになってからも、数度お詣りさせていただいた。

日南海岸コースを、青島から車で行くと、堀切峠を登り切ったところで突如眼の中に飛込んでくる日向灘の大景にはいつも驚かされる。海岸沿いにサボテン公園を過ぎ、やがて鵜戸の参道に着く。空は飽くまで澄み切って、東京のスモッグ空に慣れた者には想像もできない青い空である。参拝の人々は、家族連れ、友達連れ、団体と多いが、恐らく始めてお詣りする人が多いのだろうか。一歩一歩神域の南国情緒を踏みしめるように行進んでく。砂の参道にそい、岩間に渡された橋を渡り、下へ降りると、大洞窟の中に青丹の御殿が鎮まります。参拝の人々は、観光日南のキャッチフレーズにひかれて来た所謂見物人というべき人が大部分かも知れない。又現代生活の中で、自然から遠去り、人工的な施設に自分がつつまれて行く余り、何となくその生活に不満を感じ、何かしら自然に近づき、これに親しみたくなった都会の人も多いのではなかろうか。

それはとも角、民族の大移動というニックネームさえ持つ観光ブームは、戦後一大社会現象であり、神社側の選り好みを許さない滔々たる潮流である。要するに此の潮流を神社がどう受けとめるか、流れに身を任せて適当に泳ぐのか、ガッシリ受け止めて、一波を打ち返すのか、そこが問題である。

観光に来た一般大衆を、自然を背景にした神社という特別な場の中で、自づから神社の理解者、更には崇敬者、信者として質的に転化させる作用がなくては、神社の存立意味はない。少くとも、今までの世俗的な場と違った心打たれる場として意識させることが必要である。観光の大衆をそのまま帰すのは無策以上のものである。もっと啓蒙をもって、観光をリードし、むしろこれを自家薬籠中の物とする積極的な姿勢が欲しいものである。ややもすれば、目先の功利にとらわれて観光に追従し易い今日の傾向の中で、特にこれは力説しなければならない。だから参拝人に対する躾もきびしくする方が反って好感を呼ぶ。鵜戸さんの場合も、橋を渡るところから、靴を脱がせるしきたりだと聞いていたが、その伝統を知らせ、理解する人には、そのしきたりにより参拝をして貰った方が親切である。

勿論、二拝二拍手、一拝の作法の如きは大いに教えなければならぬ。いろいろ神社を理解させるために、掲示をしたり、印刷物を配ることが行なわれているが、何といっても大切なことは、神社の境内をきれいに保ち、参拝する人々に好感を持たせ、宗教を感じさせることである。厳粛さを持つ環境整備、ムード作りが根本である。しかも、それは人工的に作れるものではない。

鵜戸神宮の場合は、あの豪壮ともいうべき神社をめげる巨岩を中心とした自然そのものが、すでに高度の宗教的ムードを秘めている。それに、日南海岸コース自体が、鵜戸神宮参拝のための気分的な下地をかもし出すに大いに役立っているように思う。この恵まれた環境をあくまで大切に保存することが、大切であろう。それから更に大切なことは、神社に奉仕する人々の真心、親切、敬虔さである。人と人その誠が触れ合うところ、自然と信仰的なムードが生れてくるものである。それは単なる美辞麗句から生れるのでは決してない。

私はかって長崎の天主堂に遊んだことがある。私も大勢の観光客の中の一人であったが、説明にあたった正装の牧師さんが自ら祭壇の前にひざまづき、十字を切り、実に敬虔な態度で祈りを捧げたとき、一人二人と牧師を真似てひざまづき、頭を垂れはじめた。勿論私も思わずその厳粛さに心打たれ、祈りの形をとらざるを得なかった。これは神社の神職にも言えることである。参拝人に接する態度は、いかに些細なことでも感化力は強い。風景の美に加えて、人情の美があれば、まさに鬼に金棒。単純な気持で、ブラリと観光に来た人でも、美しい風景に心打たそ、神社のおごそかさに感動し、神職さんの親切にほだされれば、単なる観光客で帰れる筈がない。私は参拝人の一人として、鵜戸さまの海風に吹かれ、砂の参道を歩みながら、そんなことを考えていた。

「鵜戸」の名を戴いて

監査法人鵜戸事務所　森田源一郎

私共の監査法人は鵜戸事務所という名前で、この名前は鵜戸神宮より戴いたものです。

監査法人とは何か。簡単に説明しますと、資本金一億円以上の株式会社はその財務諸表の正しさについて公認会計士の監査証明を得ることとなって最早二十年経過しました。これは株主その他関係者を保護するための目的を持った制度ですが、会社の規模が大きくなるにつれて、個人の力よりは、法人組織をする方が監査の権威を高め、かつ合理的であるとして三年程前より監査法人という制度が出来ました。

私共は監査法人設立に当り、その使命の重要性と責任、そして会計の借方貸方の概念が世界の共通語たるを考えるとき、日本否世界を対象とするこの仕事の重大性に胸ふるえるの感を致し、法人の名称こそは、これに相応しいものであるべきを考えました。本年五月十二日私共参拝の折、監査法人設立の願を込めて投げた「幸の玉」が見事入りましたのを御縁としここに鵜戸のお名前を戴くこととなりました。私共設立者六名の内三名は日本公認会計士制度開設の昭和三十四年に資格を得たものであり日本発祥の神をお祭りしてある鵜戸神宮にあやかる資格はあるのではないか。そして次に監査法人は独立開業のもの同志の結びつきを神宮に御報告申上げることは偶然ではない。その三は神宮が洞に鎮座ましましてその社殿は大きくない。然も大平洋の荒波をにらんで毅然として、時に咆哮する怒濤に対峙しておられるお姿は私共法人の将来を暗示されものと信じて居るのです。

神は奇蹟を現わしません。然し後に顧みると、そこには厳然たる奇蹟が顕示されています。私共監査法人が大蔵大臣の認可を得る重要な要件たる事務所の獲得が最后の瞬間に決定したこと。十月十二日神宮への御報告が最初一人の予定のところ、周囲の事情が三名の参拝を可能としたこと、これ等皆神の力以外の何物でもありません。

現在監査法人その数二十、神社の御名を戴いたのは私共のみです。私共精一杯の努力を傾けて、始めて神の御加護を受けることを信じて疑はないものです。

（鵜戸事務所は東京都千代田区内幸町二ノ一ノ七にあります）

職員の異動

一、十月一日付　祢宜　佐藤美春　鵜戸陵墓守部を命ぜらるる

これは故津田祢宜が在職中、吾平山上の御陵参考地の陵墓守部を兼任しておられたが、今度佐藤祢宜が宮内省より後任に命ぜられたものである。

一、十月一日付　金丸登　権祢宜発令

一、十月一日付　巫子見習　非上和代　河野博子　巫子に発令

一、九月十七日付　出仕　後藤榮策　試験検定により直階を授けられる。

編集後記

○一年の計は元旦にありと云う。今年は「鵜戸」も年四回発行の計を立ていよいよ軌道にのせ、走らすことにした。

○本紙一面の最下段を「一言」の欄にし、日頃の考えを述べ、本号より「境内あちこち」を数回に渡って紹介していこうと思う。また今回は特に「鵜戸の天然林」を記載してみた

○第三号発行に際し、玉稿を賜わった各氏に対し本紙面をもって厚くお礼申し上げます。

（あづま）